

革新懇の三つの共同目標

- ①経済を国民本位に転換し、暮らしが豊かになる日本をめざします。
- ②憲法を生かし、自由と人権、民主主義が発展する日本をめざします。
- ③日米安保条約をなくし、非同盟・中立の平和な日本をめざします。

鳥取県革新懇ニュース

No.55

2020年
3月10日

〒680-0811 鳥取県鳥取市西品治806(鳥取県労連気付)
TEL0857-21-3171 FAX0857-21-3172

被爆の語り部をうけつぐ自主上映

鳥取コミュニティシネマ代表

清水増夫さん



清水増夫さんのプロフィール

若桜町出身。1968年、県職員の傍ら創作童話誌を発行する鳥取童話グループの代表に。69年、鳥取労演事務局次長。70年、自主上映団体「アートシネマ鳥取グループ」を設立して代表に。80年には「鳥取映画村」と改称。2005年、県職員退職し、NPO法人とっとりフィルムコミッションを設立して理事長に。2014年、鳥取コミュニティシネマ代表。2018年、ドキュメンタリー映画「まわる映写機めぐる人生」に出演。現在までに356回の自主上映会を実施。50年にわたり自主上映活動を続けてきた。

小学生時代、私が住んでいた町に芝居小屋風の古い映画館がありました。その映画館で化け猫映画や美空ひばり映画などを好んで見たようなおぼえがあります。ある日、私は一本の映画に出会いました。老人が水爆実験の恐怖から発狂して、自分の工場に放火するという衝撃な映画でした。後年、それが黒澤明監督の「生きものの記録」であったと知りました。劇中、精神科医が「狂っているのはあの患者なのか、こんな時世に正気でいられるわれわれがおかしいのか」というセリフは、まさに、安倍政権の悪政にもあてはまるセリフです。私の

毎年7月。特別の思いを持って、原爆映画の自主上映を続ける鳥取市在住の清水増夫さんに、自主上映される思いや地域の映画状況についてお聞きしました。

自主上映の原点が、私の魂を大いに揺さぶった黒澤映画であったことに感謝しています。中央集権的施策が、地方の映画文化を衰退させています。県内の映画館は僅か3館になってしまいました。これでは上映作品の多様性の確保が難しく、見たい映画に巡り会えない状況です。わが鳥取コミュニティシネマは、非商業的な良質の映画を上映するため、非映画館を活用し、積極的に自主上映活動を行っています。そもそも自主上映を始めるきっかけは一九七〇年にさかのぼります。地域格差は今も大差はあり

ませんが、芸術、アンダーグラウンド(前衛)、プライベート(個人)、ATG、独立プロなどの映画は、県内ではほとんど見ることができません。そして、いつしか「映画過疎地」とか「映画不毛の地」と呼ばれていました。「同じ日本に住みながら、なぜ、都会の人間だけに文化の恩恵があるのか」「なぜ、地方の人間はあきらめなければならぬのか」。その頃の私(26歳)は、そんな地域格差を嘆いていました。

「あの映画が見たい、この映画を見せたい」。そう思っ、同年12月に「アートシネマ鳥取グループ」を立ち上げ、映写機をまわしました。その後、「鳥取映画村」「NPO法人とっとりフィルムコミッション」「鳥取コミュニティシネマ」と団体は変わりましたが、鳥取を舞台にした「原爆の子」「黒い雨」「夕風の街 桜の国」「父と暮らせば」を上映。今年の被爆75年の夏は、初めて長崎を舞台にした「爆心 長崎の空」を上映します。

最近のテレビワイドショウでは新型コロナウイルスの問題が盛んに取り上げられていますが、これからの病原体がどのようにヒトの健康に害を与えるのか心配なことではあります。ただ、生物はその誕生以来ずっと何億年も感染との戦いで生きてきました。「エイズ原因ウイルスは人類を滅亡させるのか?」あるいは「人食いバクテリア(A型溶連菌)は人類を壊滅させるのか?」など騒がれます。生物の流れの原則・基本原則から言えば、話題のコロナウイルスは弱病原性に姿を変えろと思われず、人を滅ぼしてはこのウイルス自体が自滅の危険性があるからです。生物の原則は「自己中心ではない」という互いの関係から成り立っています。強いライオンも弱い属性を持ち進化しています。

今後「被爆の語り部をうけつぐ自主上映」を続けていきたいと思えます。原爆映画を一人でも多くの方に見ていただき、原爆の悲惨さ、原爆の非人間性を考えるきっかけにしてほしいと思います。

他方、日本の国ではうそつきや王様が存在し、その嘘に合わせて事実が捻じ曲げられています。昨日(2/19)は、人事院の局長さんが「うっかりと間違えました」と謝罪されました。私は声を大にして「この王様感染症は本当に怖いぞ!」と言いたいです。(高山)



日韓問題について考える

～歴史を学んでこそ本当の友好関係が築ける～

2月11日(火・祝)、米子市ふれあいの里で「日韓問題・文化交流だけでは解決しない」をテーマに、平井美津子さん(大阪府立中学校教師・立命館大学・大阪大学非常勤講師)の講演会を行いました。憲法学習会呼びかけ団体と西部春闘共闘会議が共催し92名が参加しました。参加者の感想をご紹介します。



資料を示しながら講演する平井氏 2月11日 ふれあいの里

大阪府公立中学校教師の平井美津子先生の講演を聞いて、日韓の歴史を学ぶことで本当の友好関係が築けることが理解できた。中学生にもわかるように授業をしてもらえるので、私にもわかりやすかった。



世間では第3の韓流ブームが起きているから若者には「嫌韓」はないと言われるが、決してそんなことはない。「韓流」が好きという人も言えない。慰安婦「徴用工」

問題は、日本が韓国を植民地にした1900年以降の歴史を学ばないと韓国の人たちの気持ちは理解できないと思った。日本は悪いこともしたけど良いこともした。韓国のインフラ整備は日本人がやったんだと言っている人が私のまわりにもたくさんおられる。

11 2019

ゆりはま 広報

Contents

湯梨浜町 15周年記念式典

湯梨浜町 15周年記念式典

湯梨浜町 15周年記念式典

湯梨浜町 15周年記念式典



湯梨浜9条の会 町長に抗議

町報表紙で自衛隊装甲車を賛美

湯梨浜9条の会 町長に抗議

昨年10月6日、湯梨浜町合併15周年記念式典がアロハホールで開催され、その駐車場で第1回商工フェスタが行われました。その際、商工フェスタの「はたらく車」のコーナーで、フォークリフト、パトカーの他、自衛隊の装甲車とオートバイが展示され、装甲車銃座への体験乗車等が行われました。これに対し湯梨浜9条の会は、町合併記念式典に似つかわしくない取り組み、度を越した取り組みとして、主催した町

商工会に中止の申し入れをしました。

その後、この時の様子を町報11月号が報じたのですが、表紙を飾ったのは「すごいぞ、自衛隊車両！」のコメントの付いた装甲車銃座での子どもたちの写真でした。あまりに異様な町報の編集・報道に11月25日、9条の

会会員14名で宮脇町長に抗議の申し入れをし、町長からは、町民の不信感や懸念を招いたことをお詫びし、今後このような

記事の無いようにする旨の記事を町報12月号に掲載すると返事をもらいました。

そして更に、平和都市宣言をしている湯梨浜町で、こうした事が起きてしまった事自体が問題で、町長以下全職が、改めて

日本国憲法や平和都市宣言の学習をし直すことも申し入れました。

(湯梨浜9条の会 会長 信原裕知)

福島県浪江町訪問記 ～2月27日 陸の孤島 浪江に行く～

浪江の市街地に入り、荒れ果てた商店街をしばらく行くと、町役場のすぐそばに小さなイオンが進出し、私達のような町外の人を商売の対象にしたプレブの復興商店街もできていました。かつて2万1千人の人口は8百人(2019年夏)ですが、人も帰ってきて



復興商店街の様子

浪江・津島地区には、当時人気テレビ番組の「鉄腕ダッシュ村」というのがあり、わたしもよく見ていました。その浪江はどうなっているのでしょうか。

農民連東和地区支部長の菅野さんの案内で、27日にガイガーカウンターを持って、車で浪江に向かいました。帰還困難区域に入ると、ガイガーカウンターの数値はどんどん上がります。ダッシュ村に近い津島中学校は、30倍にもなっています。戦後、開拓して開いた田畑は葦原となり、家々も灌木に飲み込まれようとしていました。



津島中学校入口

います。中心部や港のあった地域は徹底的に除染され、花卉のハウスカ

栽培で若者が暮らせる街をつくらんと奮闘している川本さんにもお話を聞きしました。すでに3人の若者が、花栽培で自立できるようになったそうです。認定子ども園の園庭で子どもたちが元気よく遊んでいました。中学校も建て変わっていましたが、小中学生は12人しかいません。住める場所と、住めない場所がきつちりと2分化されており、印象として、放射能に取り込まれた陸の孤島という感じでした。行き交う車はトラックや工事用ばかりで、街中を歩いている人を一人も見かけませんでした。遠くに、イチエフ(福島第一原発)の廃炉工事にあたるクレーンが小さく見えま

(田村真弓)